

令和3年度第3回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和3年10月14日（木）14：00～16：00

場 所：Web（Zoom）会議のため、各施設にて

出席者：8名

仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、傳道聡子（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、金城美奈子（県立宮古病院）、眞喜志好枝（県立八重山病院）、島袋百代（パンキャンジャパン沖縄アフェリエイト）、中山富美（地域統括支援センター）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）、

欠席者：2名 樋口美智子（沖縄国際大学）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、

陪席者：7名 糸数真理子（那覇市立病院）有賀拓郎（琉球大学病院）、石川千穂（琉球大学病院事務） 那覇市立病院実習生4名

【報告事項】

1. 令和3年度第2回情報提供・相談支援部会議事要旨

資料1に基づき、傳道委員より、令和3年度第2回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. がん患者ゆんたく会（7～9月）

県立中部病院は、新型コロナウイルスの影響で2020年2月から開催出来ていなかったが、10月28日（木）に1時間の予定で開催できることとなったとの報告だった。那覇市立病院でもゆんたく会は開催されていないが、オンラインでの開催を検討中で、地域統括支援センターのオンラインゆんたく会を参考にするため見学した。今のところ日程の目はたっていないとのことだった。琉大病院は10月5日に対面での開催があった。コロナ渦ではどのように過ごしていたのか、ワクチンに関する話題等、がん以外の話題もでていたが、対面で交流でき和やかな雰囲気で行ったとのことだった。来月以降は講師を呼んでテーマ設定したゆんたく会を企画している。パンキャンジャパン沖縄支部では、3月、6月にオンラインで開催された。10月30日にも開催予定なので、その際は小グループを作って話ししていこうかと計画している。がんサポートハンドブックをみて連絡してきてくれる参加者が増えてきているとの報告だった。

3. がん相談件数（7～9月）

資料3-1～3-6に基づき、令和3年7～9月の各拠点病院のがん相談件数について報

告があった。北部地区医師会病院からは、コロナ病棟に緩和ケア専従看護師が応援にいったことで、相談件数は相談員が受けたものだけになっており、件数が減っている。コロナの影響で入院していると面会が出来ないためなのか、自宅で療養したい・自宅で看取りたいなどの相談が続いた。家族と過ごしたいという理由で、県外や県内の他病院から地元に戻って来たい等の相談が多かったとのことだった。中部病院からは、北部地区医師会病院と同じように、面会制限が気になっての在宅医療の相談や、ホスピス・緩和ケア・介護についての相談が多かったとの報告があった。ネットで知ったゆんたく会で、がん経験者から話を聞くことで、家族のがん治療法のヒントが得られるかもと連絡してきた方もいた。那覇市立病院での相談内容は、不安や精神的苦痛がどの月も多く、在宅医療・ホスピス・緩和ケア・介護についての相談も増えていた。また面会制限のため、在宅で生活できないかという相談増加傾向にあるような印象とのことだった。宮古病院からは、本島での治療が終わった方や、治療の副作用の辛さの為、本島への通院がむずかしくなり宮古で経過をみることになった方の在宅調整を行ったケースが増えていた。告知の際に、コロナの影響で本島から来島できなかった家族に、スマホを通して同席をしてもらったケースも2件あった。レジメン変更や独居・高齢についての気づきで、異種クランクから相談につながるケースも少し増えてきたとのことだった。八重山病院からは、徐々に担当医からの初回介入相談件数が増えてきているが、それ以外にも問診時等、診察前に看護師や異種クランクが気づいて声掛けしてくれるケースが増えている。八重山病院でも入院せずに在宅療養ができないかという相談件数がかなり増えている印象。また、他院でがんサポートハンドブックをもらい、島に戻ってきた際に相談にくるケースが徐々に増えている印象もあるとの報告だった。琉大病院でも、在宅療養・緩和ケア・ホスピスに関する相談が引き続き多かったとの報告だった。9月は入院外来制限があったが件数は大きく減らず、患者・家族間のコミュニケーションに関する相談が増えた。入院中の患者の状態を、家族が見ることが出来ず退院が決まったりするので、退院後の話をしたいという相談もあった。外来も、付き添いできない場合もあって、患者自身と家族では、病状に関する理解度・情報量の違いがあるような印象を受け、コロナの為、情報伝達に影響があるように感じながら対応した。

4. がん相談件数集計（7月～9月）

7月～9月の相談件数集計について紙面にて報告された。

5. がん相談支援センターの広報

資料5に基づき、がん相談支援センターの広報に関する報告があった。計6回の依頼中、3回掲載された。「ほーむぷらざ」は、緊急事態宣言が明けるまでは情報コーナーはお休みとのことで、いずれも「週刊レキオ」での掲載であった。引き続き広報依頼を行う。

6.地域統括相談支援センター活動報告

資料 6 に基づき、今回部会から委員として参加することとなった中山委員から報告があった。7月～9月の相談件数は合計 15 件で、コロナの影響のため、去年、一昨年よりも件数が減っているとのことだった。琉大以外の施設の通院している方の相談もあった。内容としては、がん治療の副作用の不安についてや、セカンドオピニオンを受けたほうが良いか等の相談があり、ピアサポーターとしての自身の経験をお話したり、相談支援センターにつなぐ等の対応を行った。今年度はピアサポーターフォローアップ研修会をオンラインで行ったとの報告もあった。うまくいくのか不安もあったが、終了後は今後も研修会を行って欲しいなど前向きな感想が聞かれとても良かったとの報告だった。オンラインでのゆんたく会も 8 月 9 月で開催された。高齢者の参加者ということではあったが zoom 参加もスムーズで、和やかな雰囲気ゆんたく会となった。また、酸素ボンベを使用している参加者からは、移動が難しいのでオンラインは助かるとの感想や、耳が遠いという参加者からもイヤホンをしているため声が聞き取りやすく会話に参加できるという感想もあった。その他、10月1日から、がんピアサポート展がサンエーで開催されていること、また「ピアサポート相談室」10周年特別ラジオ番組放送についても報告された。

7.第1回がん相談員実務者研修会

資料 7 に基づき、8月28日にオンラインで開催された、「がん患者支援におけるコミュニケーションスキル」に関する、がん相談員実務者研修会の報告があった。講義後のポストテストではプレテストよりも正答率が上がった方が多かったので、講義を通して理解が深まったと捉えられるだろうとのことだった。意見交換が出来て良かった等、概ね満足度の高い結果となったようだとの報告だった。12月11日(土)には、第2回がん相談員実務者研修会が那覇市立病院主催でオンラインを使用して開催される。

【協議事項】

1. 今年度の事業計画について

資料 8 に基づき、大久保委員より報告があった。事業計画(2)、初診時に相談支援センターに紹介がなされる仕組みづくりについて、これまでに各病院で行われた取り組みについて、事前に情報収集を行っていた。資料に提示された現状・課題以外に、以下のような報告や補足があった。

- ・初診時に必ず相談支援センターに立ち寄ってもらうということは、まだまだではあるが、腫瘍内科の医師からは告知後に声掛けがあり、連携が増えてきているので継続していければ。(中部病院)
- ・がん相談支援センターの紹介が、初診時に必ずということができておらず、告知の時につながらるといったケースが多いが、医師から相談員につないでもらうことが毎年の課題。緩和

ケア専従看護師が立ち会えば、患者情報をまめに共有することが出来、患者が相談来ることの予測が付きやすい。このように携わってくれているスタッフには声掛けして相談につながるように心がけている(北部地区医師会病院)

- ・初診時にがんサポートハンドブックをお渡しできるように各診療科医師のデスクあたりに置いているが、現状、全科には行き届いていないことが課題。がん診療連携室に所属されている看護師から、相談員と一度会ってほしいとの声掛けは行っているが、全患者には対応できていない。会計コーナー付近の患者相談窓口には常時相談員がいるので、帰りがけに声掛けしてもらって、少しずつ相談支援センターの周知につながれば。また、受付に設置しているがんサポートハンドブックは減りが早いが実際相談につながっている数は少ないようなので、どのように繋げたらよいかということも課題。(那覇市立病院)
- ・告知は緩和ケアの看護師が同席しているが、その際にリーフレットを渡しているが、ハンドブックは、その時に渡しづらいケースは次回外来時等に渡すなど、タイミングを見ている。医師の意識の違いで告知の際に同席依頼がある場合とない場合がある。また、今年度中にごん相談支援センターの増築着工し、来年度にはお部屋が広がる予定なので、ごん相談につながるきっかけになればとの報告もあった(宮古病院)
- ・医師からの新規の情報提供は徐々に増えてきているので、これまでのように地道に相談員から医師へ声掛けしていく。初回お会いした患者・家族に、次回から相談支援センターも利用してもらえよう、窓口連絡先が記載された、院内の多職種のリーフレットを渡すようにもしている。ごん相談支援センターは地域連携センターの中にあり、看板も出ているが、具体的な役割等を紹介した、相談支援センターの案内コーナーを空いたスペースに作ることも検討している。(八重山病院)

今後も各病院の取り組みを集約し部会で共有し合う。

おきなわ小児がん相談支援マニュアルの改訂については、増田委員と事務(石川)で事務運営を進めることで承認となった。

2.その他

増田委員より、当日資料に基づき、情報提供相談支援分野に関する指標について、説明と提案があった。会議終了後、以下について、意見収集を行うこととなった。

①情報提供相談支援分野のがん対策について指標に関して。

Google スプレッドシートの URL を事務局から委員へ送付し、その中に指標について意見・提案を書き込む。

②がん拠点病院の指定要件の大幅改訂が来年予定されている指定要件に関して。

直接、増田委員へメールで意見を送付する。

①.②いずれも、11月1日(月)を期限とする。

次回開催について

次回開催についてはメールで事務局から日程についてアンケートを行う。